

## 「山陰新聞」流行性感冒（スペイン風邪）記事

### 【記事 1】大正 7 年 10 月 27 日「世界的の流行性感冒（はやりかぜ）」

近来関西地方にて猖獗（しょうけつ）を逞しうし居れる流行感冒は頗る悪性にて人命を奪ひ去る者少なからず、最近に至つて漸次山陰地方にも侵入し益々蔓延の兆あり、種田邑智郡長斃したるが如きは其最も悲しむべき一例なり、尚ほ此流行感冒は独り我国にて其悪性を逞ふしつゝあるのみならず、去る十七日横浜入港の諏訪丸にて上陸せる患者の如き入院死亡せるもの尠（すくな）からず全く世界的大感冒にて米国にては西班牙（スペイン）感冒と云ひ欧州にては塹壕感冒と称し居れりと。

### 【記事 2】大正 7 年 10 月 30 日「恐るべき大感冒 当地方も益々猛烈」

松江市内に於ける流行性感冒は益々猛烈を極め島根県庁の如きは農務課を始め欠勤者多く就中（なかんずく）商工課に属する度量衡検定所の如きは全部欠勤の為め度量衡器の検定は▼全然休止の姿なり、其他各官衙とも欠勤者あり、事務の渋滞を来し居れる間もあるが松江郵便局の如きは欠勤者三十名程ありて日々送受信をなして而も尚渋滞輻輳勝の電信部々員約半数、又例の交換手の方にも半数、現業部にては吏員中たつた二名の無障者で他は何れも半病人而して定員三十九名にて欠員まで多き集配人中二十名の▼感冒患者を出したるを以て配達取集め等二進も三進も行かず大騒動なり、之に次ぐは松江駅にて一人欠けても運転がきかぬに患者の続出に閉口しつゝあり、又松江市立各小学校における欠席児童総数は既記の如く千百六十二名に達し最も甚だしき母衣小学校は二十八日午後より休校せしが内中原小学校も二十九日より二日間休校する事となれり、又市内各▼中等学校にては患者続発の状態にて師範学校最も多く為めに二十八日より七日間、同附属小学校は二十九日より六日間何れも休校することとなりたるが、其他の中等学校にありても臨時休校せん意向にて県当局において目下詮議中なり

### 【記事 3】大正 7 年 11 月 2 日「流行感冒の猖獗 中小学校陸続休業」

▼県庁其他松江地方に於ける流行性感冒は益々猖獗を極め島根県庁にては岩元内務部長下村理事官の如きも三十一日より罹病引籠れるが昨一日における同庁の欠勤者四十四名の多きに達し内農務課は草場課長以下十七名の欠勤者あり其他各官衙に在りても以前欠勤者多しと

▼県立学校 本県師範学校及び在松県立各学校にては感冒患者続発のため客月三十日より更に向ふ一週間休校することとなり又市立各小学校に於ても引続き昨日より二日間又は三日間休校することとなり（…後略）

### 【記事 4】大正 7 年 11 月 3 日「潮の如き蔓延の勢 松江警察管内に於ける流行感冒」

▼松江市内における流行感冒は非常なる勢ひを以て蔓延し今や一町内にて患者なき家は殆ど数ふるに足る少数のみ中には炊事さへ出来ざる者あり、両三戸連合にて順番に炊事を担任し居る向ある由なるが旅人宿の如きも投宿客にして罹病しその俣宿り続きといふ状況に在る者少なからず人心胸々として何れも予防警戒に注意し居り、小児の如きは外出を止め一般人も成るべく外出を

忌む有様なるより市内各商店は随って寂寞を極め居れり、又新地遊郭にては芸娼妓合計百名中約半数は流行性感冒に犯され居るため日々の営業さへ出来兼ねる有様に抱主は何れも頭痛鉢巻の体なりと云ふ。

### 【記事 5】大正 7 年 11 月 3 日

- ・八束郡乃木村及び津田村…「十月二十八日頃より順次蔓延の兆しあり、今は村内患者なき家なく其為め小学校は一日より休校の已むなきに至れり」
- ・意東村…「村内を通じて八・九十名の患者あり、学校生徒も亦多少罹病せしが病状左まで重からざるを以て未だ休校を為すに至らざるも、隣村の能義郡荒島村・赤江村等は随分猖獗を極め大いに警戒を加へ居れり」
- ・揖屋村…「最初松江高等女学校に通学中の女学生十一名感染して帰郷せしより遂に全村に蔓延し底止する所を知らず、小学校生徒六十余名教員三名の罹病者を見るに至りたれば是亦休校の已むなきに至れり」
- ・岩坂村地方…「二十八日頃より患者弗々続出し同村小学校は二十九日三十名、三十日四名と云ふ毎日の激増に加へて教員六名中三名何れも頭も擡げ得ぬ重患に罹りたるため一日より五日間休校せり」
- ・大庭村…「案外流行尠く目下小学児童中七八名の患者あるに止まり必至と予防警戒中なり」
- ・宍道地方…「全部の蔓延に学校も三十日より休校し」
- ・本庄村…「二十五日頃より流行し初め小学五年生六十名中二十九日には僅かに二十名と投稿者ありたるのみ受持教員亦三名の患者を出し授業不能となれり、その他大網組の漁夫三十六名中過半は感冒患者なるため漁業出来ず益々蔓延の勢ひなるが早きは三四日遅きは二週間位にて全治し居れり」
- ・持田村・川津村…「毎戸患者無きはなくその為め両村学校は何れも休校し居り」
- ・講武村…「全村猖獗を極め軽きは三四日重きは二週間位にて全治し居れるが家族全部臥床の向尠からず」
- ・古江村…「始め左程悪性のものに非ず□医療を忽にしたる結果逐次患者数を増加し□下は医療患者百三十四名に及び学校の如きも一日より五日間休校し居れり」

### ●西廻汽船休校 船員感冒の為め

松江合同汽船会社に於ては目下流行の感冒に船員の病臥せる者頗る多く為めに第七千鳥丸は一日午後四時より坤徳丸は午後四時三十分より休航せしが二日は午前五時二十分松江発江角行の第一千鳥丸及び美保丸は簸川郡小境港にて何れも休航の止むなきに至りしかば二日午後より西棧橋発汽船は全部休航せり。

### 【記事 6】大正 7 年 11 月 4 日「流行性感冒 予防注意 警察部長通牒」

流行性感冒は今や諸官衙を荒し諸会社を荒し諸学校を荒し疾風の枯葉を捲くが如き勢ひを以て蔓延猖獗を逞しうしつゝあり、之が為め社会一切の機関殆んど活動を停止するの状態に在るは日々の紙上に報ずる所の如くなるが、島根県警察部長は此の程島司各郡市長各警察署長に宛て左

の予防注意書を発し予防上遺憾なく□□□られたき旨通牒したり

一、流行性感冒の原因は一種の細菌に因るものゝ如し

一、病状は初め悪寒を感じ次で三十九度乃至（ないし）四十度の高熱を発し為めに頭痛その他身体諸々の疼痛を発し全身倦怠を覚へ咽頭気管加多答等を発し又は銀杏の障碍を起すことあるも通常三四日を経れば下熱し一週間位にて全治に至るもの多しと雖も稀には肺炎を併発し其の他高熱に伴ふ諸種の疾患を誘発することあるを以て発病当初より医療を怠らざる様注意を要す

一、本病予防の重なる事項を列举すれば左の如し

（一）成可く群集せざること

（二）患者発生したる場合は別室に隔離し患者の鼻汁唾痰及び是等に汚染したる一切の物品を煮沸日光又は消毒薬等を以て相当消毒を行ふこと

（三）患者の鼻嗽噴咳等に接触せざること

（四）居室の清潔を保ち且つ換気採光を良くすること

（五）衣服寝具等を清潔ならしめ且つ時々日光消毒を行ふこと

（六）口腔、咽頭、鼻腔を清潔にし且薬液又は清水を以て一日四五回含嗽すること

（七）普通の感冒に冒されざる様注意すること

### ●汽船続々休航

大橋東棧橋発米子行第五千鳥丸美保関行大礼丸及び第七千鳥丸は何れも三日午前八時三十五出航せしがその他各汽船は何れも船員感冒のため休航の止むなきに至れり、而して前記三艘も引続き毎便航海すべきや否や不明なりとのことなりしが、若し休航せば大橋汽船は一艘も運転するもの無きに至るべく、蓋し前代聞のことなり

### 【記事 7】大正 7 年 11 月 5 日「火葬場の狭隘 死亡率激増の為め」

松江市営火葬場は設置以来屢々狭隘を感じ其後漸次現在三個の火葬設備を為すに至りたるが、猶ほ或る場合には不足を感ずることあり常局にても常にその補充策に関し攻究せざるにあらざるも未だ其の運びにいたらざりし際偶々今回の流行性感冒より市内に於ける死亡者数近来俄に増加したるため火葬場は一層痛切に不足を感ずるに至り死亡後数日を経ざれば火葬に附するを得ざる状態に在り斯く之の如く屍体を放置し火葬順の来るを待つが如き有様にては現下向寒の時期は兎も角温気の候ともならば忍び得ざる所にして市衛生上に於ても亦注意を要するとなるべしと某氏は眉をひそめつゝ語れり

### 【記事 8】大正 7 年 11 月 6 日「流行性感冒益々猖獗 松江市患者二万四千人」

▲市内 島根県における流行性感冒は其後益々猖獗を極め昨五日其筋の調査に依れば松江市内の人口四万の内約十分の六即ち二万四千人は該感冒に罹り居れり

▼県庁 島根県庁にては昨五日の欠勤者五十九名に達し高等官にては熊谷理事官が出勤し居るのみにて漸次欠勤者を増の状態なり

▼軍隊 歩兵隊六十三連隊にては今回の感冒に冒されたるもの少数にして隠岐国出身の軍曹一名死亡せるのみ他は漸次治癒し四日の演習行軍に際し支障なきを得たり、然れども松江衛戍病院

には野砲兵第二十三聯隊第一大隊長新井少佐以下約三十名収容せられ居る事とて軍医看護婦長看護手等は之れが治療看護等に忙殺され居れり

### 【記事 9】「謹告」

過半来猖獗を逞しうしつゝある流行性感冒は早く本社内に侵入し、編集営業両部を始め印刷工場皆日々多数の患者を発生し、あるも本社は新聞紙の責務を顧み残員を励まして最大能率を發揮せしめ一名能く三名に当たるの努力を以て今に至るまで平常の如く紙面を發刊し來りたるが、今や編集部及び印刷工場共に僅々数名を存するのみ殆ど全滅の悲境に陥りたるより、又如何ともする能はず已なく本日以後多少記事を減少するに至りたれば幸に読者の諒察を講ふ、尤も今後数日を経過せば復旧の期あるべく本社亦其復旧に努力を惜しまざるべきを誓ふ 山陰新聞社

### 【記事 10】大正 7 年 11 月 8 日「流行感冒も今が絶頂 肺炎の多い時 ▼松江の死亡率 著しい増加」

横暴的に脅威を振ひつつある流行性感冒の蔓延につれて頃日来の罹病患者の死亡率夥しく最近市のみに於ける患者数の統計に拠れば全市人口数の約半数以上即ち二万数千の患者を出しつゝあるが其後患者は続出し加之急性的の肺炎を併発し死亡する者夥しき模様なるが、最近約一か月間に於ける我が松江市内のみの死亡者数は総数九十六名にして一日平均三名余の割合を示し更に本月に入りて一日より七日まで一週間に於ける死亡数は四十六名約一日平均七名に達し居れり、斯くの如き比例を以て行くときは十一月中には死亡者総数実に二百十数名の多きに達せざるべからず、而して右志望者中今回の流行性感冒を原因とし肺炎其他各種の気管支炎等を併発して死亡せるもの十月中は約四十七名にして本月に入りて七日間の死亡数四十六名中肺炎其他感冒を原因として死亡せるもの二十三名に達し居れり、之れを昨年と同月中に比較するに同月中の死亡者は四十一名にして十一月中の死亡者は六十二名の死亡数を示し居れり、之を本年の概算と比較する時は十月十一月の両月間に於て二倍の乃至（ないし）三倍の増加となり居れり、之等は唯に今回の感冒を主要原因とするものなるに外ならずと見るを得べし

### 【記事 11】大正 7 年 11 月 11 日「感冒と各地 ▼松江」

這般来各地方に於ける流行性感冒を原因とする死亡者の数は夥しきものにして我松江市における死亡者の如きも頃日来殆ど平常の五倍乃至（ないし）七倍に達し居れる有様にて当局者も頗る繁忙を極め居れり

### 【記事 12】大正 7 年 11 月 12 日「火の消えた浴場」

感冒患者の多きと全治者も非常に大事に掛る結果、近来浴場に赴くもの尠く其ため折角沸した湯を水にする状態なるを以て市内浴場の休業する者多く壯健者の不便尠からずと

### 【記事 13】大正 7 年 11 月 15 日「感冒と鉄道」

目下全国各地に瀰漫猖獗を極め居れる流行性感冒の爲めに受けたる鉄道輸送上の支障素より尠からざるが、其貨物輸送上の影響を聞くに、感冒のため欠勤せる従事員多き為め貨車の運転上相

当の困難あるは勿論なるが、これが為め特に其運転を休止せるものは全線中唯十二列車に過ぎず、且感冒で全国ほとんど普遍的に蔓延せる結果一般に持つの持ち込み引取の数はも勢ひ相当の減少を来せる為め目下の処其鉄道輸送上には何等の師匠渋滞なきものと謂ふべく、最近の統計に依れば全線を通じて滞貨と称すべきもの二十二萬噸あるも相当の在貨数量は鉄道輸送上当然あり得べき事にして右の如きも決して感冒の影響に依る輸送力減退の結果とは目し得られざるものなりと某貨物当事者は語れり

#### 【記事 14】大正 7 年 11 月 23 日「流行感冒と小学校 ▽健康者一割六歩」

過半来猛威を世界的に振った流行性感冒も稍々終息に近付ひたが、比較的罹病者の多かった市内各小学校生徒の罹病状況を調べて見るとザット次の様な状況を示して居る、現在市内の各小学校生徒総数は四千六百十名であるが、其の中で感冒に襲はれた者が参千八百六十九名と云ふ大多数に達し、全く健康の状態を持続して来た者が僅か七百四十一名、即ちヤット全生徒数の一割六歩弱である、而して之等の教育に携さはつて居る職員総数が九十六名中六十七名は病魔に冒されて居る事が解った、此の中で今尚病状に呻吟して居る生徒が三百四十三名で死亡者は未明、職員中には未治患者が三名で死亡一名を出して居る、之を各学校別に区分して見ると、母衣校で千二百六十五名の生徒中罹病者が千百三十四名、職員二十六名中罹病者十九名、使丁三名は全部冒され未治患者は生徒中に五十七名である、次に北堀校で全生徒五百三十四名中三百九十名は該病に冒され、十四名の職員中十名は該罹病者で、使丁二名中一名は同じく患者であった、而して之れも未だ四十二名は未全治者となつて居る、内中原校は全生徒七百七十六名中六百九十九名は冒されて十五名の職員中十三名は該病に冒されて、未全治者が四十四名、白潟校が八百八十九名の生徒七百六十一名、職員二十名中十六名は同様患者で未治患者が三十七名、職員に二名残つて居る、終りに雑賀校全生徒一千百四十六名中八百八十五名、職員二十一名中九名は冒され未治者が生徒に六十二名残つてみると云ふ事を知り得た。

#### 【記事 15】大正 8 年 11 月 26 日「死亡者が少い ▲例年より松江は」

近時各地とも流行感冒蔓延の兆ありとて警戒しつつあるが、最近松江市内に於ても此種感冒に罹るものあり、市民の注意肝腎なるが当局の語る処によれば、本年の死亡数は近年になき少数なり、斯く減少せしは、昨年流行感冒にて取り越したる結果と見るべきが、最近四年間の死亡実数見るに…（後略）

#### 【記事 16】大正 8 年 12 月 6 日「流感の予防 ▲市役所より注意」

流行性感冒は風邪季節に入ると共に漸次流行を来す恐れあるを以て、松江市役所にては今回内務省衛生局の左記予防心得を配布せり（後略）

#### 【記事 17】大正 9 年 1 月 20 日「松江の死亡者 ▲流感は少し ▲マスクの需要」

本年一月に入り十九日正午までの松江市内の病死者総数は五十六名にて一日約三名死亡率を示しつつあり、内目下各地に而猛威を振るひ松江市にも魔の手を広げんとしつつある流行感冒が死因をなしたりと認むべきものあり、即ち肺炎は六、七、八、十二、十九の五日間に七名と毛細気

管支炎十八日一名ありて純然たる流行悪性感冒にて死亡者は十五日に二名、十八日三名、十九日一名、計六名をいだし、漸次蔓延の兆あるより、十九日市役所にては所員約百五十名に対し予防法の一策としてガーゼマスクを一斉に所内にて使用せしむべく調整に着手せるが、一方市内各薬店小間物店等にては大阪よりマスクを移入し販売せしも一溜りもなく売切れとなり、再注文をなすも彼の地の需要をすら満たす能わざる状態にて、移入杜絶せしより、十八日頃より市内小間物商其他にては製造に着手するものあり、又個人にて自家用を製造して間に合せるもの等非常に多く、其結果として十八日以来小間物店に於けるゴム紐の類は全部売切んとすると共に、薬店の脱脂綿ガーゼ、昇汞水（\*）等の売行き盛んにてガーゼマスク内に昇汞ガーゼを挿入する者多き由なるが、昇汞ガーゼ挿入者は製造に注意せざれば舌頭が之れに附着する等の場合は意外の失敗あるべしと。

（\*）昇汞水…昇汞とは塩化水銀Ⅱの俗称であり、昇汞水はその水溶液で極めて有毒。かつては消毒に用いていた。（広辞苑）

**【記事 18】大正 9 年 1 月 21 日「流行感冒は島根県を包囲す 石州地方は既に患者続出 ◇大々的警戒を要す」**

（記事略）

**【記事 19】大正 9 年 1 月 23 日「松江市学校の流感予防」**

松江市内各学校生徒の悪性流行感冒予防法に関し、十九日午後二時より市役所に於て松江市学校衛生協議会を開く、出席者市内五学校医六小学校長にて、之れに高橋市長、三谷助役、勝部学務主事、衛生係主事等僧院十四名流行性感冒予防に関し、主として左記の如く注意を与ふるに決し、次いで予防心得五項目は各学校児童を介して父兄に通しせしめたり。（…後略）

**【記事 20】大正 9 年 1 月 27 日「松江市内にて流感三百余名 死亡者十四名に達す」**

松江市役所衛生係りに於て各開業医に就き調査せる市内流行感冒患者は二十六日完成せるが、之に依れば廿三日現在の該患者総計三百五十七名にて内男二百十八名、女百産十九名にて、其内▼死亡者は男五名女九名と云ふ統計なり、而して此統計は勉めて正確を期する筈なるも一名の患者にて兩名の医師の診断を乞へるもの或は普通疾患感冒と昨今の医師は目の廻る多忙なると多量の誤脱等なきを保し難きも大体に於て違算なからんとのことなり（後略）

**【記事 21】大正 9 年 2 月 6 日「ワクチン注射」**

既報松江市役所注文のワクチン注射液は二号五本到着せしを以て予定の希望者に注射を了したるが、二号ワクチンは一本二十五人分なるより百名余に注射せしに止まりたりと、又市内灘町衛生組合にては組合事業として市役所の紹介にて東京北里伝染病研究所より感冒予防注射液ワクチンを八百名分を購入し同町内全部住民に予防注射を行ふべく決議し該薬到着に付七日白潟小学校にて岡崎医師をして注射せしむる由

**【記事 22】大正 9 年 3 月 28 日「流感の通った跡 死亡十万七千」**

一時猛烈に世間を脅かした流行感冒も昨今全く終息したが、其猛威を振るった跡は慄然たるものがある、内務当局の▼調査によれば昨年十一月の初発以来三月十五日迄に全国流感に見舞はれたものが実に二百十五万五千二百九十二人の多数に上り、内死亡者は十万七千八十二人に達している、当局の話によれば「肺病類による死亡者は全国▼一ケ年で約十万人であるが、之れなぞは流感に比較すべきだがチブスは同上一万人、赤痢は其時々流行によって数もいろいろ変るが一ケ年五千位であれば流感の猛烈さ知るべきである」と、因に之れが為め簡易生命保険の支払も亦大きいものであると云ふ、尚、▼地方に依ってはまだ僅少の患者があるが、左程悪性ではないと云ふことである。

**【記事 23】大正 9 年 12 月 8 日「流感予防の宣伝 躍鬼と成て居る内務省 各国とも学説を異にして居る」**

昨今寒気加はり可なり感冒か欧州の戦禍よりも全世界の生霊を恐怖せしめた流行性感冒なりや否やは疑問であるが、尠くとも一般国民は単なる感冒と雖も何日何時悪化して流感となるかも解らない今の内に周到なる用意をして各自に予防を講じなくては駄目である、衛生局では一昨年の例に徴し必ず本年も相当流行するだらうと云ふ予想の下、専任の係員をして欧米先進各国に於ける流感予防の材料を蒐集し目下調査をせしめつゝある…（後略）

**【記事 24】大正 9 年 12 月 11 日「今年の感冒は悪性で無い 今月末から注意」**

（前略）昨年暮から今年春にかけて流行した感冒も今年殆どその影を見ないが軍隊などはだいぶ嚴重に流感の予防に努めマスク等を利用し衣類厚着をするなど種々方法を講じて□□、某医師の談に一昨年の流感は極めて猛烈なもので一日に数十名死亡者を出し為めに火葬場や病院等も甚だしい混雑を呈したが、今年は未だ流感らしいものはない、現在各所で流感云々と云って居るのは決して昨年のやうな悪性を帯びたものではなく二三日来の激寒のために罹った者が多く、昨年の□直に肺炎に悪化してゐたが今度のは最初発熱呼吸器等が痛みを覚え胃腸に来て食欲が進まないもので大した心配するものではないが、熱の高い時は直ちに医師の診断をうけた方が安心である、猶本年末過から流感が□□しないとも限らないから一般庶民は十分油断しないで自覚して貰ひたい。

※□…文字の掠れ、汚れ等による判別不能文字